

熊本県立天草高等学校倉岳校 令和3年度(2021年度)学校評価表

1 学校教育目標
「県立高等学校における教育指導の重点」及び「人権教育取組の方向」等を基盤に据え、本校の校訓「正大・剛健・寛厚」のもと、生きる力の育成を通して、豊かな人間性の育成と生徒、保護者及び地域に信頼される学校づくりを目指す。

2 本年度の重点目標
(1) 互いの人権を尊重しあう心の教育の充実 (2) 基本的生活習慣の確立と社会規範意識の醸成・・・生徒指導の充実 (3) 進路意識の高揚と進路目標の早期確立・・・進路指導の充実 (4) “生きる力”としての基礎学力の定着・・・授業の充実・教科指導力の向上 (5) 健康・安全教育の充実 (6) 特別支援教育及びインクルーシブ教育の充実 (7) 学校の魅力づくりとその情報発信による入学者数の増 (8) 学校における働き方改革

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
	魅力ある学校づくりに取り組む。	・本校の教育目標、教育活動を地域に発信し、志願者増を図れたか。	・体験入学者数50人以上を目指す。 ・志願者数20人以上を目指す。	・実施日を早期に通知するとともに、海上タクシーやスクールバスの利用等、中学生が参加しやすいように工夫する。 ・倉岳中、御所浦中、栖本中の高校説明会で在校生による発表を行う。 ・県立高校魅力化支援事業を活用し、学校紹介動画を作成し、天草管内の全中学校に配付する。	B	・7月21日(水)に体験入学を実施し、68人の中学生が参加した。学校紹介、模擬授業体験、スクールバス体験利用等、中学生の反応も概ね好評だった。 ・出席した12の中学校の高校説明会のうち、倉岳中、御所浦中、栖本中、五和中では、事前に撮影した在校生のメッセージを発表した。県立高校魅力化支援事業を活用し、学校紹介動画を作成し、天草管内の全中学校に配付する予定。 ・中学低学年次からの学校PRと個別の学校見学の受入体制づくりが課題である。
		・本校の特色を生かした教育活動の充実が図られたか。	・各科目のClassroomを開設し、単元ごとに1回以上活用する。 ・単元あたりのICT活用度を表すKI指数(くまもとICT指数)であるU-KI指数について、学校平均50以上を目指す。 ※KI指数 授業中のICT活用度を表す指数で、授業中の活用度を割合で表した数値。KI指数50は、単元や授業中に50%活用したことを表す。	・学期に1回以上、1人1台端末活用に関する職員研修を行う。 ・月に4回来校するICT支援員について、授業準備や教材作成、授業支援等で積極的に活用する。 ・天草高校全日制の各教科と連携し、1人1台端末の活用方法について情報交換を行う。		B

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	地域に根ざし、地域一体となった学校を目指し、開かれた学校づくりに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や同窓会、地域等と協働し、充実した学校行事ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マリンフェスタ、親子除草作業、秋桜祭、長距離走記録会、送別クラスマッチなど保護者が参加する学校行事の出席率を昨年度以上にする。 ・マリンフェスタや秋桜祭において、生徒や保護者が同窓会を身近に感じられる取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・余裕をもって保護者に日程等を提示するとともに、実施日や時間配分など、保護者の意見を取り入れ再検討する。 ・マリンフェスタでグッズ販売を行い、秋桜祭の企画に展示や動画などの形で参加していただく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・マリンフェスタの保護者の参加率は85%（昨年度は中止、2年前は78%）であった。親子除草作業は今年度は中止になったが、62%の保護者が参加予定であった。（昨年度は49%）秋桜祭の保護者の参加率は88%（昨年度は83%）であった。1ヶ月前に日程を伝えることを心がけ、マリンフェスタや秋桜祭の内容や実施時間を見直したことが増加につながったのではないかと考えられる。 ・マリンフェスタでポロシャツの販売、秋桜祭で同窓会企画の展示を行った。しかし、同窓会から新たなグッズを販売するなど、現役生への支援つながる協力ができればさらに良かった。
		・教育活動の公開の促進は図れたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの累計アクセス数を15万件以上にする。 ・倉岳校の情報を地域に発信し、地域住民に学校をより一層理解してもらおう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの更新を週1回以上の頻度で行う。学校行事の更新のみならず、普段の学校生活の様子や部活動、委員会活動の様子を発信する。 ・学校独自の取組（学びのUD構築事業や一人一台端末活用状況など）も発信し、内容の充実を図る。 ・倉校新聞（年5回発行）を市政だよりにはさみ、倉岳町内の全世帯（約1000世帯）に配付するとともに、近隣中学校の各学級に配付し、掲示してもらおう。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・HPは学校行事後に更新し、部活動や委員会活動をはじめ、ゆるキャラのページなど様々なコンテンツを発信することができ、累計アクセス数は15万件を超えた。 ・学びのUD構築事業の通信や一人一台端末を活用した授業実践例なども発信することができ、アクセス数の増加につながった。 ・倉校新聞は年5回町内及び近隣中学校の各学級に配付することができ、学校行事のお知らせ等にも有効に活用することができた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学力向上	生徒の基礎基本の定着と学力の向上に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 各定期考査前の1日の平均学習時間で、3時間以上だった生徒が目標を上回ったか。 各定期考査で欠点を1科目以上保有した生徒が目標を下回ったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 全生徒が、各定期考査前の1日の平均学習時間3時間以上について、年間1回以上達成することを目指す。 各定期考査での欠点保有者数10人未満を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間調査の調査用紙や実施期間を見直し、生徒が見通しを持って計画的に取り組めるように工夫する。 全校集会等で学習時間調査の目標や状況、各定期考査での欠点保有者数等について提示し、学習への意欲を高める。 学習時間調査の結果を全職員で共有する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間調査の調査用紙を見直し、計画と実施を併記できるようにした。また実施期間を考査前2週間分に延ばし、生徒が見通しを持って計画的に取り組めるように工夫した。 2学期までの考査前平均学習時間3時間以上を達成した生徒は30人である。 各学期の始業式と終業式で欠点保有者数等について生徒に周知した。各考査の欠点保有者数は、1学期中間5人、期末4人、2学期中間10人、期末10人であった。
		<ul style="list-style-type: none"> 意欲的な読書の推進が図られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人当たりの貸出冊数7冊以上を目指す。 4科目以上の授業での図書室や資料の活用を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書便りを年間3回発行する。 朝読書は習慣となっているため、生徒個人に読書記録を配付し、活用させ、さらに活性化させる。 図書購入を進め、蔵書の充実を図る。 各教科と連携し、調べ学習等でも図書館を利用してもらえるよう、呼びかける。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人当たりの貸出冊数は1月末現在4.8冊である。 生徒たちに「読書記録」を配付し、活用ができているが、図書便りの発行は2回にとどまる見込みである。 県立図書館より本の借用を行い、生徒たちの利用に供することができたが、購入を進めることができなかった。 教科の学習での活用も、まだ呼びかけの必要がある。
	職員の学習指導の工夫・改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> スーパーティーチャーの活用または近隣高校への授業見学の回数が目標に達したか。 高等学校における「学びのユニバーサルデザイン」構築事業の成果検証アンケート(事業前・事業後)のアンケートの結果が上昇したか。 	<ul style="list-style-type: none"> スーパーティーチャーの活用または近隣高校への授業見学を各教科で年間1回以上を目指す。 『マナスタ』(生徒編)のNo.4「振り返り」、No.6「ノート、ファイル・プリントの整理」、No.9「わからないことを尋ねる」、No.15「積極的な発表」、No.18「発表後の拍手」に関するチェックリストの比較において、肯定的な数値の上昇を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> スーパーティーチャーを含む各県立高校の公開授業の案内と授業見学を促進する。 授業見学に参加しやすい時間割の作成に努める。 『マナスタ』チェックリストを年3回実施し、その結果を全職員で共有する。 1学期に校内公開授業週間、2学期に公開授業週間を実施し、『マナスタ』を活用した授業、言語活動を取り入れた授業、ICT機器を活用した授業等について、相互見学並びに意見交換を行い、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善・充実を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 5月に校内公開授業週間、10月に公開授業週間を実施した。また1人1台端末活用モデル授業の実施、中高連絡会や民生委員・児童委員との懇談会時の授業公開をとおして、ほぼ全教科で授業を公開した。 『マナスタ』チェックリストを年3回実施した。No.4、6は2ポイント程度減少したが、No.9、15、19は3ポイント以上上昇した。 依然コロナ禍のため、スーパーティーチャーの活用や近隣高校への授業見学が課題である。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
進路指導 (キャリア教育)	基礎学力の向上を目指す。	・「マナトレ」課外で、1年生は基礎編、2年生は標準編、3年生は応用編を終了させる。	・各編3教科において認定テストを実施し、70点以上を合格点とし、8割以上の生徒が合格するように目指す	・課外活動だけでなく必要に応じて放課後指導や個別指導を実施する。	C	マナトレについては自習形式のため受講する生徒の集中力に差があった。パワトレについては3学年合同で行うため、学年進行での発展的な学習ができていない。今後、朝課外の是非も含めて検討する必要がある。
	進路意識の高揚と、進路決定100%に向けて取り組む。	・3年生の進路目標が達成できたか。 ・1、2年生は希望進路について積極的に考えて、各自の進路達成に向けた取り組みができたか。 ・今年度より各学年「キャリアパスポート」を導入したので、各行事で活用できたか。	・3年生の進路希望実現100%実現する。 ・2年生は具体的な進路志望を定めることができる。 ・1年生は進路希望の方向性(就職・進学など)を定めることができる。	・学年と連携し、進路指導部会で生徒の希望進路について情報を共有し、その対応について協議・検討する。 ・学力進路検討会を各学年、年間2回以上実施し、全職員で生徒の学力や適性の分析を行う。 ・支援を要する生徒は外部機関と連携し、生徒の適性を踏まえた社会接続支援を行う。 ・総合型選抜入試や推薦入試の受験を見据え、3学年や各教科と連携して計画をたて、全職員で課外授業や個別指導、小論文指導、面接指導を行う。 ・学年と連携し、個別面談をとおして生徒に必要な進路情報を伝えていく。	B	・進路検討会についてはこれまで2回実施し、2月に3回目を開催する。 ・支援を必要とする生徒の外部機関との連携は学年を中心に行われた。生徒全体に対しては、各種ガイダンスへの積極的な参加を促した。 ・個別指導については3年生は2コース開講し、実施できた。1・2年生についても国公立大学志望者に対して、2年生は1学期から、1年生は3学期から実施した。 ・個別面談に対して必要な進路情報提供があまりできていなかった。 ・各行事で「キャリアパスポート」は十分活用できていた。
	社会接続支援の充実に取り組む。	・各講演会後のアンケート結果が目標値を達成できたか。	・全体でキャリア講演会を実施するだけでなく、各学年に応じた講演会を実施する。 ・各種進路ガイダンスの案内をする。 ・改訂した「キャリアパスポート」を活用し、進路の目標設定ができる。 ・1年生では「職業人インタビュー」を、2年生では「インターンシップ」を実施する。	・各講演会終了後に「キャリアパスポート」に記入させ、どれだけ理解できたかを確認する。 ・「朝コラム」を毎週金曜日に実施し、生徒と社会での出来事をつなぎ、社会情勢に対する興味・関心を高める。	B	・「キャリアパスポート」の活用はできていたが、行事ごとに感想用紙と重なる場合があった。 ・「朝コラム」の実施はほぼできていた。 ・2年生の「インターンシップ」は、新型コロナウイルス感染症拡大で、2度延期することになり、まだ実施することができず、いつ実施できるか不透明である。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
生徒指導	礼節を重んじた基本的な生活習慣の確立に取り組む。	・「倉岳校生活規律訓」に則った規律ある生活を送れているか。	・生徒の自己評価アンケートで「生活規律訓」の各項目においてA・B評価92%以上を目指す。 ・服装頭髪検査において、再検査者0を達成し継続する。	・全校集会等で「生活規律訓」の意識付けを図り、実行できるよう促す。特に昨年度目標を下回った「あいさつ」、「時間」、「希望進路」の項目に重点を置き指導を継続する。 ・日頃から全職員で指導を行い、服装頭髪検査前には各クラスで事前指導を徹底する。	B	・全職員で日頃から生活規律訓の内容に沿った指導を行うことができた。掃除や服装ではA・B評価が97%と高い数値であったが、昨年度同様にあいさつ、時間、希望進路達成に関する項目で目標値に7%～19%不足した。一部の評価が低かった生徒に対する指導の工夫が必要である。 ・服装頭髪検査を毎月全校集会時に実施した。実施回数8回のうち、2回が再検査者0であったが、継続はできなかった。しかし、多くの生徒が身だしなみを意識することができている。
	自ら考え、行動できる人間の育成を図る。	・教職員と良好な関係を築けたか。 ・自分の将来の夢を持つことができたか。	・生徒の学校評価アンケートで「先生方に気軽に悩みを相談できる」のA・B評価50%以上を目指す。 ・生徒の自己評価アンケートで「将来の夢を持っている」のA・B評価80%以上を目指す。	・ネットワークを用いた面談予約システムを構築し、誰もが気軽に相談できる環境を整える。 ・全校集会で、「将来の夢」について全生徒が発表する取り組みを通して、将来に向けて希望を高める。	B	・ネットワークを用いた面談予約システムを運用し気軽に相談できる環境を整えた。利用件数は0件だったが、生徒の学校評価アンケートで、A・B評価が昨年度から29ポイント上昇し76%であった。全校生徒が相談しやすい環境を整える工夫を来年度も継続したい。 ・生徒会や代議風紀委員会を中心に、将来の夢の発表や自己肯定感や他者理解を深める取組を実施したが、「将来の夢を持っている」のA・B評価は昨年度から2ポイント下降し72%であった。生徒1人ひとりが将来の夢を持って学校生活を送ることができるよう取組の検討が必要である。
	社会に通用する人材の育成を目指す。	・ボランティア活動の推進が図られたか。 ・交通安全教育の推進が図られたか。	・校外のボランティア活動等に、全校生徒がそれぞれ1回以上参加する。 ・交通事故、交通違反の件数0件を継続する。	・朝の清掃ボランティア活動の推進による習慣化と、校外ボランティア活動への参加呼びかけを積極的に行う。 ・登下校指導を年間10回以上実施し、交通規範意識の向上を図る。	A	・新型コロナの影響で、校外でのボランティア活動への参加は難しかったが、3年生を中心に倉岳町のボランティアに参加することができた。また、朝の清掃ボランティアには97%の生徒が参加し、1月15日現在で参加生徒はのべ2039人と昨年度ののべ893人から大幅に増え、積極的にボランティアに参加することができた。 ・交通安全教室の実施や考査期間中の下校指導等を行い、交通安全に関する意識を高め、交通事故・違反者ともに0であった。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
人権教育の推進	互いの人権を尊重しあう心の教育の充実に取り組む。	・人権教育の推進が図られたか。	・人権教育推進委員会を年3回以上開く。 ・全職員が校外研修や人権関連行事に年1回以上参加する。	・各学期に人権教育推進委員会を開き研修や人権LHRの充実、情報の共有を図る。 ・校外研修や人権関連行事の情報提供を行い、積極的な参加を促す。	B	・人権教育推進委員会を各学期に1回開き、情報共有をしながら研修や人権LHRの充実を図ることができた。 ・新型コロナウイルスの影響で複数の校外研修や人権関連行事が中止となったが、約8割の職員が校外研修を実施した(オンラインでの研修を含む)。
	命を大切にすることを育む指導の充実に取り組む。	・命を大切にすることを育む指導の充実が図られたか。	・命を大切にすることを育むための授業を年10時間程度実施し、「命」や「夢の実現」「ストレス対処」「薬物乱用防止」「救急法」についての学習を深める。	・各学年、教科と連携し、各学年別単元(ユニット)を構成して、計画的に指導を行えるようにする。 ・年度初めと年度末にアンケートを実施し、結果をもとに全職員で生徒の「命」に対する考えや、ユニットを通しての変化を把握する。	B	・新型コロナウイルスの影響で規模を縮小して実施した行事もあったが、年度はじめにユニットを構成し、計画的に指導を行うことができた。 ・年度末のアンケートは3学期の人権LHR後に実施予定であり、結果を分析して生徒の実態を把握し、指導に生かす必要がある。
いじめの防止等	いじめ防止基本方針に則った活動を遂行し、いじめのない学校づくりを推進する。	・いじめの未然防止が図られたか。	・いじめ防止のための職員研修(生徒理解も含む)を年間3回以上実施し、職員での共通理解を図る。 ・面談週間を学期に1回実施し、生徒の状況を把握することで未然防止につなげる。	・研修の復講等を通して全職員の意識向上を図る。 ・面談週間の際に担任が全ての生徒に対して「いじめの有無」や「クラスメイトで悩んでいる者がいないか」等を聞き取り、生徒の状況把握を行う。	A	・県教育委員会主催の研修内容を職員研修で復講し、いじめに関する考え方や対応について全職員で共通理解することができた。 ・各学期の始めに全生徒と面談を実施し、状況把握に努めることができた。
		・いじめの早期発見の取組が図られたか。	・いじめアンケート調査を年間3回以上実施し、各生徒の実態把握を行う。	・各学年職員と連携し、7月・12月・2月に実施する。いじめの状況等を把握し、いじめ対策委員会で協議を行い、必要に応じて担任及び生徒指導部等で面談を行うとともに外部専門員を入れた組織で早期に対応する。また、いじめ匿名サイト「スクールサイン」を全生徒活用できるよう指導する。	A	・心のアンケートを2回実施(第3回は2月実施予定)し、いじめの早期発見や早期解消に努めた。現時点でいじめの認知件数は0件であるが、人間関係のトラブル1件に対してSSWの支援も要請し組織的に対応できている。また、今年度のいじめ匿名サイトへの投稿件数は0件であった。
地域連携	学校行事における地域との交流の推進に取り組む。	・各年代との交流を深めることができたか。	学校評価アンケートの地域交流に関する項目において、「地域の方々との交流を通して地域をより理解できた」生徒を75%以上にする。	・近隣の幼保小中や老人会、婦人会などとの交流行事を年間3回以上実施する。コロナ禍であるため、実施内容を工夫しながらも生徒に主体的に行事に参加させる。	A	11月に保中高合同避難訓練、12月に老人会との交流会を実施することができた。また、2月に婦人会との交流会を実施する予定である。教師の事前の声かけで、感染症拡大防止に留意しながらも地域のリーダーとしての自覚を持たせながら臨むことができ、学校評価アンケートの「地域の方々との交流を通して地域をより理解できた」生徒の割合は81%だった。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
	地域の行事やボランティア活動に積極的に参加する。	・地域との連携の取組が図られたか。	・地域行事やボランティア活動への参加を生徒及び職員併せて年間5回以上行う。	・地域のボランティア活動や行事などの情報を発信し、全校生徒に周知するとともに参加を促す。	B	・新型コロナの影響で、校外でのボランティア活動は限られたが、上天草大水害50年式典ボランティアやえびすマラソンボランティアに多数の生徒が参加することができた。
保健・安全管理	心身ともに自己管理ができる生徒を育成する。	・心身の健康に対する意識が高まったか。	・心身の健康に関する講演会の生徒の理解度を98%以上にする。 ・ストレス対処教育講話を開催し、自己管理能力を養う。 ・スクールカウンセラーによる面談を実施し、自身の健康を維持・向上させていく姿勢・力を育てる。	・心身の健康に関する講演会を年間3回以上実施し、生徒の理解度確認のためのアンケートを実施する。 ・ストレス対処教育講話を学年ごとに1回ずつ実施する。 ・担任との連絡を密にし、カウンセリングの必要な生徒に、確実に面談の機会を設ける。	A	・心身の健康に関する講演会を4回行い、多方面から意識を高めることができた。ただ、理解度確認アンケートの平均値は97.4%であった。 ・ストレス対処教育講話、またSC面談により学んだことを、生徒たちは実生活に生かしている。今後、必要な生徒にはソーシャルスキルトレーニングの実施につなげたい。
	安全・衛生についての管理を徹底し、事故・罹患を未然に防ぐ。	・安全点検・衛生管理により、事故・罹患を未然に防げたか。	・安全点検を年間3回実施し、事故件数0を継続する。 ・感染症の発生を防ぎ、罹患させない。 ・環境調査を行い、環境の整備を行う。	・長期休暇中に全職員で安全点検を実施する。 ・消毒液を各所に備え付け、放課後、職員で分担し利用箇所を消毒する。 ・生徒に対して、学校環境に関する調査を行う。	B	・安全点検は年間3回実施し、放課後の校内消毒も継続して行っており、事故件数、感染症発生数ともに0件となっている。 ・学校環境調査でわかった補修の必要な箇所は、年度末までに整える予定である。
	良好な人間関係を構築するための態度やスキルを育成する。	互いの良さや違いを認め合い、安心して自分を表現できる人間関係を構築できたか。	・高等学校における「学びのユニバーサルデザイン」構築事業の活動を引き続き行い、よりよい人間関係を構築する力を育てる。	・全校集会・LHRにおいて「人間関係づくりワークショップ」を年間を通して計画的に実施し、事後アンケート等で、コミュニケーション能力について意識の変化を測る。	A	・「人間関係づくりワークショップ」は計画的に実施でき、生徒たちも意欲的に参加していた。各回で生徒それぞれに気づきがあり、事後アンケートでも「今後につなげたい」という前向きな感想が見られた。
	防災教育及び災害時の自助、互助公助の精神を養う。	・災害時の避難場所や避難経路を正しく理解できたか。	・避難訓練を年間3回以上実施し、生徒の防災意識を高める。 ・訓練後のアンケートにおいて災害時の避難場所や避難経路を正しく理解できた生徒を98%以上にする。	・地震の避難訓練を2回、火災の避難訓練を1回行うことで様々な災害に対応できるような生徒を育成する。 ・抜き打ちで訓練を行うなど工夫を凝らし避難訓練を実施する。 ・訓練後に防災主任から訓練の振り返りや防災講話を行い、生徒の防災意識を高める。防災備蓄品や海にいるときに津波が発生した場合の対応、災害ボランティアについてなど様々な視点から話を行う。	B	・地震の避難訓練を5月、11月に行い、火災の避難訓練を12月に行うことができた。訓練後のアンケートにおいて災害時の避難場所や避難経路を正しく理解できた生徒の割合は100%であった。 ・ただ、予告なしで実施することなどができなかった点は今後の課題である。 ・訓練後には、防災主任から海にいるときに津波が発生した場合の対処法やマイタイムラインの作成、消防署と協力して消火器の使い方講座を実施するなど、多方面から防災教育を行うことができた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
特別支援教育	特別支援教育の充実と支援体制を確立する。	・特別支援体制の確立ができたか。	・個別の教育支援計画及び個別の教育指導計画の作成と、一人一人の教育的ニーズ等に応じた合理的配慮の提供を行う。	・作成した個別の教育支援計画及び個別の教育指導計画を共通理解するための時間を確保する。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、巡回指導員と連携し、合理的配慮の方法等について、検討し、職員の共通理解のもとで支援にあたる。	B	・個別の教育支援計画及び個別の教育指導計画を作成し、全職員で共通理解をもち、支援を行った。 ・対人関係で困り感のある生徒について、SCから合理的配慮の方法等について助言をもらい、支援につなげた。 ・SSWの指導助言を通して、専門機関と連携して生徒の支援ができた例もあった。
業務改善・働き方改革	教職員が健康で公私ともに充実した人生を送ることができるよう体制を整備する。	・働き方改革に係る環境整備と教職員の意識改革ができたか。	・教職員の勤務時間外在校時間を月45時間以内にする。 ・年間の15日以上OfYear取得を目指す。	・月1回の定時退勤日、夏季休業中の学校閉庁日(4日間)を設ける。併せて、部活動や個別指導がない日は積極的に定時退勤を行う。 ・「部活動に係る活動方針」に基づき、適正な練習時間を遵守し、指導の分担等も進める。 ・業務の見直しを行い、「各分掌の1業務削減」に取り組む。	A	・月1回の定時退勤日、8月11日(水)～14日(土)を学校閉庁日、部活動は、水曜日と休日の土日少なくとも1日を休養日としている。 ・12月末現在、教職員の勤務時間外在校時間の平均は月43時間42分(昨年度44時間30分)である。昨年度が4,5月休校であったことを考慮すれば、働き方改革への取り組みは進んでいると考えられる。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
4 学校関係者評価						
<p>(1) 学習指導について、生徒一人一人を大事にされた丁寧な指導、取り組みの様子が感じられた。学校行事等もコロナ禍の中、延期や内容変更等と生徒が様々な体験ができるように工夫された取り組みがなされており、アンケート結果にもあるように生徒達も楽しんで学校生活を送っているのがわかった。</p> <p>(2) 生徒・保護者向けアンケートの結果から、教育活動に対して高い評価を得ているものが多く、充実した教育活動が実践されていることと教職員の不断の努力が感じられた。</p> <p>(3) ホームページや学校新聞を活用した情報発信もしっかり取り組んであり、学校や生徒の様子がよく伝わって良い。</p> <p>(4) 学校評価アンケート「先生方に気軽に悩みを相談できる」についても生徒用端末を利用して、生徒が気軽に相談できる環境を作るなど、工夫・改善の姿勢が見られたのはよかった。</p>						

5 総合評価						
<p>(1) 学習指導に関しては、生徒用端末や電子黒板等のICT機器を積極的に取り入れた授業を展開し、わかりやすく工夫された授業を実施することができたが、まだ試行錯誤の状態の部分もあり、職員間の連携により機器の取り扱いや取り入れる内容や場面の改善も必要である。また、生徒用端末の活用により、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成することができた。</p> <p>(2) 計画された進路関係の行事もほとんど実施でき、進路意識の高揚を十分図ることができた。3年生についてはほとんどの生徒で希望進路を達成できた。また、1・2年生についても具体的な希望や方向性を定めることができたが、今後も面談等により、生徒の思いや考えを確認していくことが大切である。</p> <p>(3) いじめの未然防止に向けて職員の共通認識のもと組織的かつ計画的に取り組み、認知案件「0」であった。今後も生徒の小さな変化に気づくとともに、教職員へ相談しやすい雰囲気作りにもさらに取り組まなければならない。</p> <p>(4) 感染防止に留意しながら昨年度以上の地域と連携した行事を行い、地域に信頼される学校づくりを実現することができた。</p> <p>(5) 生徒募集に係る説明や学校新聞・ホームページによる発信等を通して、本校の特色や学習活動・学校行事の様子、入学後の生徒の変容等を広く周知することができた。</p>						

6 次年度への課題・改善方策						
<p>(1) 多様な学力や特性のある生徒に対して、基礎・基本の定着や良好な人間関係の構築に向けた指導の工夫・改善に取り組み、安心して学校生活を送れる環境作りを進める。あわせて、生徒用端末の利用による話し合いや学び合いの活動が充実したり、各教科での学習内容の理解が深まったりするような活用を目指す。</p> <p>(2) 外部組織や団体をさらに活用して、進路意識の高揚と適切な進路選択ができるように情報提供するとともに、生徒が主体的に進路選択を行い、その実現に向けて積極的に取り組むことができるようにする。また、生徒一人一人の学力の実態に応じた学習指導（課外・個別指導を含む）の効果的な取組を工夫し、学力の向上と進路希望の実現につなげる。</p> <p>(3) 生徒が挨拶や服装・態度など生活規律を正しく維持できるように、職員の共通理解のもと指導を行っていく。また、情報モラル教育の充実、学校における言語環境の整備、他者への理解等を通して、いじめの防止と安全・安心な学校づくりを推進する。さらに、生徒が職員に対し気軽に相談したりできるような態勢づくりを工夫する。</p> <p>(4) 校種や世代を超えた交流により体験の幅を広げ、豊かな心を育むために行事や活動を通して地域との連携に取り組むために日頃からの情報交換を密にして、地域に信頼される学校づくりをより一層推進していく。</p> <p>(5) 上記の取組等を通して魅力ある学校づくりをさらに進め、その成果を積極的に発信して、入学者の増加を目指す。</p>						